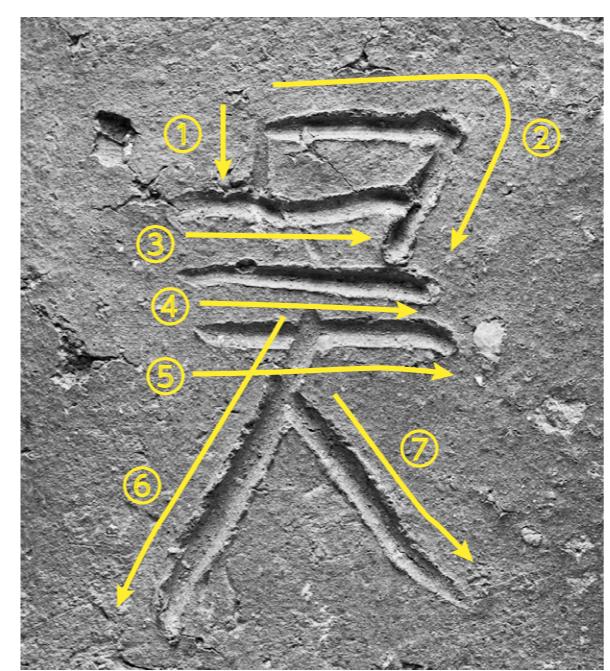




檜隈寺跡付近出土「吳」文字瓦（原寸大）



多数確認されている「吳」文字瓦（右側の3点は飛鳥藤原第164次調査出土）



本資料の「吳」の筆順

「吳」と書かれた瓦

左ページの瓦は、檜隈寺跡付近で出土した文字瓦です。明日香村在住の方より、2021年2月に飛鳥資料館にご寄贈いただきました。

丸瓦の凸面、玉縁部に近い箇所に「吳」と刻まれています。瓦が焼かれる前のまだ柔らかい時に書かれたようです。この「吳」という字は「吳」の俗字（異体字）で、木簡等にも多く確認できます。檜隈寺や周辺の発掘調査では、同じ文字の書かれた瓦がこれまでにも多数出土しており、文様や製作技法の特徴から7世紀後半の年代が想定できます。

明日香村大字檜前や大字栗原は『古事記』や『日本書紀』に伝わる「吳原」の地と考えられ、渡来人がこの地に多く住んでいたとされます。また、檜隈寺は渡来系氏族の東漢氏が建てた寺と考えられています。この文字瓦は、檜隈寺と渡来人との関係をものがたる遺物といえるでしょう。

なお、この文字瓦を展示した、令和3年度飛鳥資料館ミニ展示「新収蔵品紹介—「吳」と書かれた瓦—」は好評につき、会期を延長しております。ぜひお越しいただき、この瓦を通じて、はるか昔の国際色豊かな飛鳥の地に思いを馳せてみてください。

（飛鳥資料館 清野 陽一）